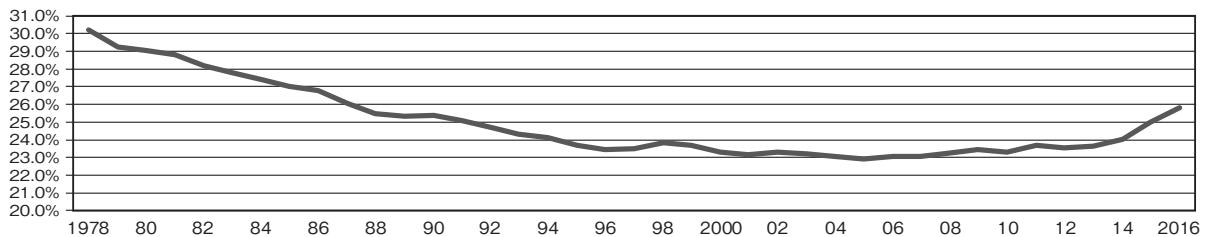


## 「エンゲル係数」

去る2月17日、総務省が2016年の家計調査速報を発表、「エンゲル係数が29年ぶりの高水準になった」と話題になりました。エンゲル係数という単語を「懐かしい」「久しぶりに聞いた」という方も多いのではないのでしょうか？

### 1. 「エンゲル係数」とは？

ドイツの社会統計学者エルンスト・エンゲルが1857年に発表した統計的指標で、衣食住など生活を維持するために行う支出である消費支出に占める食料費の割合を指し、「食料費÷消費支出×100」で求められます。食料費は嗜好品や娯楽に比べ極端な節約が難しいため、エンゲル係数は低所得者ほど高いとされてきました。終戦直後は60%を超えていましたが経済成長にあわせて漸次低下、1979年に初めて30%を切って以降、近年は20%台前半で変化なく、あまり話題に上りませんでした。ところが2010年以降は上昇に転じ、2015年に25.0%、2016年は25.8%と1987年以来の高水準となりました（下表参照）。



「わが国のエンゲル係数年別推移（2人以上の勤労者世帯）」

総務省統計局「家計調査」より

### 2. 上昇の理由は？

#### (1) 食料価格の上昇

わが国は小麦や大豆など、多くの食料を輸入に頼っていますが、ここ数年、円安基調となり（USドル/円の年間平均レート：2011年…1ドル約80円、2016年…同約109円）、食料価格が上昇していることが主な要因の1つです。また2016年は台風や長雨の影響が北海道など農産物の主要産地を直撃、ニンジン、玉ネギ、白菜などの価格が高騰、食料価格上昇に拍車をかけています。

#### (2) 消費税率引き上げ

消費税は1989年に導入されましたが、当時は「バブル」最盛期で所得が大きく伸び食料費以外の支出も増加したため、消費税導入によるエンゲル係数上昇はみられませんでした。しかしながら、税率が8%に引き上げられた2014年以降、エンゲル係数が目立って上昇しており、最近では消費税率引き上げの影響が大きく出ているものと考えられます。

#### (3) 社会構造の変化

厚生労働省によると、女性の就業率（25～44歳）が1985年の56.5%から2015年には71.6%と大きく上昇しています。共働き世帯がこの10年で約10%増加、調理済みの総菜購入費もそれにつれて増えています。また、高齢化の進展によって、高齢者のみで家事が十分にできない世帯が増え、「調理代」を含む総菜を日常的に購入する層が増加していることが、エンゲル係数上昇の一因であるといわれています。

### 3. エンゲル係数は今後も上昇するのか？

エンゲル係数の変動要因は上記以外にもあると思われますが、2019年に消費税率10%への引き上げが予定されており、エンゲル係数には今後も着目していく必要があるようです。

## 閑話ひとつ

- ▶ 甘党でもある私にとって、桜餅、花見団子、草餅、柏餅と楽しみな時期になりました。野菜・果物やお菓子も季節感がなくなっている昨今ですが、やはりその季節、季節に食べる味は格別です。
- ▶ 人それぞれに、鼠耳の店やこだわりがあるようですが、隣の県では全国から客を集め、手作りおはぎを一日に何千個も売り上げるスーパーがあると聞きます。
- ▶ 本県でも「酪王カフェオレ・アイス」や会津若松の老舗菓子店の胡桃菓子をはじめ、清酒醸造元の甘酒や「骨まで～サバの味噌煮」など全国的に話題を集めるものが続々と出てきました。
- ▶ また、震災後、軒並み苦戦の本県産農産物の中であって、ブランド評価を受け、トップシェアを確立している夏秋キュウリはかなり善戦しています。
- ▶ これらのことは、追従を許さないもの、真似ができないもの、かけがえのないものを作っていくための地道な積み重ねが何よりも大切なことを教えてくれているようです。 (YM)